

2005年1月3日(月曜日)

# ボランティアと行政との協働

ボランティア活動が  
広がるよう応援します



福井県知事  
西川 一誠



水害ボランティアとして活躍した  
吉村 智恵子さん

「役に立ちたい」という  
みんなの気持ちで大きな成果

平成17年の新春を迎え、より住みやすく、より元気な福井の創造に向け、県内でも広がりを見せているボランティアと行政の協働をテーマに、西川知事と昨年水害ボランティアとして活躍された吉村智恵子さんが対談しました。

※協働…同じ目的のために対等な立場で、責任を共有し、共に働くこと



## ボランティア活動に参加して

知事	あけましておめでとうございます。
吉村	あけましておめでとうございます。
知事	住民の皆さんの多様なニーズに応えるため、ボランティア、NPOなどの民間団体と行政がお互いに協力し合い、いろいろな分野で活躍していただく動きが広がっています。 吉村さんは、昨年福井豪雨が発生した際に、ボランティアとして熱心に活動されたお一人だと伺っています。 そのきっかけはどういうことでしたか？
吉村	私の家は、福井市内の足羽川のすぐ近くに 있습니다。今回の豪雨では幸い被害はありませんでしたが、身近で起こった災害に衝撃を受けました。「自分にも何かお手伝いできることがあれば」と思い、ボランティアに参加しました。
知事	どんな活動をされたのですか？
吉村	最初は、一般ボランティアとして、被災された住宅の泥かき作業をしました。 その後、ボランティアセンターのスタッフとして、ボランティアに来られた方に被災地の要望に合わせて作業を割り振る業務を約二週間担当しました。
知事	私も何度かセンターに行きましたが、県内外から大勢のボランティアの皆さんが集まってくださり、その中でスタッフの皆さんが汗を流しながら熱心に活動していらっしゃいました。心から感謝しています。

	実際に活動されてみて、いかがでしたか。
吉村	ボランティア活動は初めてでしたが、まず、「人の力は、すごく大きい」ということを実感しました。一人ひとりの力は小さいかも知れませんが、「何か少しでも役に立ちたい」という気持ちが一つになることで、大きなことが達成できることに感動しました。
知事	ボランティアセンターのスタッフとして活動されて、特に大変だった点はありましたか。
吉村	「こういうふう処理をすればうまくいく」という決まったパターンがなく、試行錯誤の連続でした。
知事	復興を応援したいと全国から駆け付けてくださったボランティアの方たちのお気持ちと、被災者の要望とを現場でうまく調整していく作業は、とても大事ですね。 切り盛りするスタッフの皆さんがいたからこそ、センターが効率的に運営され、現場で作業にあたったボランティアの皆さんが思いきり力を発揮できたのだと思います。 さらにそのことが、何よりも被災者の皆さんをサポートする大きな力になったのでしょうか。



## 福井での取り組みについて

知事	福井豪雨では、発生から約一カ月の間に、延べ六万人ものボランティアが集結し、各被災地の復旧作業が急ピッチで進みました。 このような活動ができたのは、平成九年に起きたナホトカ号重油流出事故の際、全国から集結した災害ボランティアによる活動が展開されたことで、福井に災害ボランティア活動の伝統が根付いていたことが挙げられます。 もう一つの理由が、「福井方式」と言われていますが、災害ボランティアに関する専門知識をもつ民間団体の皆さんと行政が力を合わせて、災害発生直後にボランティアセンターを立ち上げ、ボランティアの受け入れ体制や活動のための資機材を整えるという新しいスタイルの取り組みを行ったことです。 一般的に災害ボランティアセンターは、行政が場所を提供し、運営は民間のボランティアにお願いする方式が多いようですが、福井では、民間と行政が情報を共有して話し合いながら活動を進めることが大切だということで、この方式を新たに導入したわけです。 現場におられて、この点については、いかがでしたか。
吉村	行政とボランティアが「協働」して一つのことを成し遂げて行くことを実感できました。センターでは、毎日、ボランティアの送り出しが終わった後で、ミーティングを行っていました。その時、いろいろな組織・団体に属している人が、対等な立場で意見や感想を言い合ったり、アイデアを出し合って問題を解決していました。 「少しでも被災者の役に立つような活動をしよう」というみんなの気持ちが一致していたので、大変活動しやすかったのだと思います。
知事	なるほど。今後は、ボランティアとして活動したいという県民の皆さんのお気持ちを大切に、そういったお気持ちを持った皆さんが速やかに思い切った行動が起こせるよう、行政としての確かな支援をしていくことも必要だと考えています。
吉村	ありがとうございます。資金や資機材などといった問題は、私たちボランティアだけでは解決できません。そういう部分を行政に補っていただければ、お互いの活動がやりやすくなると思います。
知事	そうですね。本県には、県内の災害復興を応援するための災害ボランティア活動基金条例がありました。先ごろの中越地震を契機に、県外で行うボランティア活動にも基金を活用できるよう、全国でも初めての取り組みとして条例の改正を行いました。 さらに、ボランティアの皆さんと県職員が先遣隊として一緒に現地を訪れ、被災地で必要な支援内容を調べたり、復興支援のための活動を行いました。
吉村	すばらしいことですね。いろいろなパターンに柔軟に対応していただけることは、実際に活動する側にとって本当にありがたいことだと思います。

知事	<p>今後も、ボランティアの皆さんが日本全国で活動できるよう、いろいろな工夫を行っていきたくと考えています。</p> <p>また、災害ボランティアの活動を推進する条例なども設けて行きたいと考えています。</p> <p>吉村さんは、今後もボランティアなどに頑張ってみようと思われませんか。</p>
吉村	<p>災害は起きてほしくありませんが、私が持っている知識やノウハウがお役に立てるのでしたら、また、活動してみたいと思います。</p>

## 協働に向けて

知事	<p>県では災害ボランティアに限らず、例えば、福祉や教育といった分野においても、民間の活動団体の皆さんとの協働を進めています。</p> <p>これまで、行政は、住民の皆さんに共通の公共サービスを提供してきました。しかし、近年、住民の多様なニーズに合ったさまざまなサービスが求められており、行政だけで対応するのは困難な状況です。</p> <p>そういった住民の多種多様なニーズに応えるため、専門的な知識・技能を持ち、また機動力のあるボランティアやNPOなどの民間団体がきめ細かなサービスを提供し、その活動を行政がサポートすることによってより柔軟な公共サービスの提供を目指していきたいと考えています。</p>
吉村	<p>住民と直接つながるボランティアの意見やアドバイスは、住民のニーズを知り、サービスを提供する上で、とても貴重だと思います。</p> <p>豪雨の際にも、被災地でボランティア活動をしてきた方から「被災者の方に対する心のケアが必要では」といったアドバイスがスタッフにありました。センターでは、そういったボランティアの方からの助言を新しい課題として取り上げて、行政のメンバーも入っているスタッフ全員で解決していくよう努めました。</p> <p>こうした経験からも、協働がとても大切で有効なものだと感じています。</p> <p>いろいろな分野で協働が実現すれば、素晴らしいことだと思います。</p>
知事	<p>住民の皆さんが、さまざまな活動を通じて、幅広い分野で自主的に活動する、あるいは、行政と対等の立場で活動すると、いろいろな考え方が生まれてくると思います。</p> <p>さらに多くの県民の皆さんにボランティア活動を広めることがこれからの重要な課題の一つだと考えています。</p> <p>県では、災害ボランティアの活動を推進する条例を今年制定する予定です。そういった条例を通じて、県民の皆さんにボランティア活動への関心をさらに高めていただき、活動を広めていくことによって、福井を全国に発信したいと思っています。</p> <p>県民の皆さんが、社会づくりに直接参加するという意味でも、協働は重要な意味を持っています。</p> <p>吉村さんには、今後ともご活躍いただくとともに、いろいろな面で、よりよい福井県づくりにご支援いただきたいと思います。</p>
吉村	<p>私にできることがありましたら、また、お手伝いさせていただきたいと思います。</p>
知事	<p>よろしくお願いいたします。</p>